10月21日付朝刊　２面　米、イスラエル支援２兆円、中東・中国にらみ予算要請

1. この記事に注目した理由を教えてください
   * バイデン大統領は１９日の午後８時、ゴールデンタイム、プライムタイムと呼ばれる時間帯に、ホワイトハウスの執務室から米国民向けに演説
   * イスラエルを攻撃するイスラム組織ハマスをテロリスト、ウクライナへの侵攻を続けるロシアのプーチン大統領を独裁者と非難
   * 両国への支援が米国の安全保障に直結すると訴えた
   * 注目すべき点が２つ
   * まずは、大統領執務室、オーバルオフィスからのゴールデンタイムでの演説という形をとった点
   * オーバルオフィスからの演説というのは、他の演説と比べても非常に重たいもの。政策的・政治的に最も重要なイシュー、緊迫する状況下で国民を一つにまとめる必要がある、そういったイシュー
   * さらに、演説ではイスラエル支援とウクライナへの支援を結びつけた
   * *ハマスによるイスラエルへの攻撃は、ロシアのプーチン大統領によるウクライナへの戦争と悲劇、残虐行為と呼応*
   * *ハマスとプーチンは異なる脅威だが、近隣の民主主義国家を完全に消滅させようとしている点で同じ*
   * *放置すれば世界中の侵略者たちは同じことをしようとする。これにはインド太平洋地域なども含まれる*
   * *両国への支援は、将来の世代に対する安全・安定した生活という配当をもたらす賢明な投資*、と位置付け
2. しかし、支援したくても米国議会では、下院議長が不在という事態が続いています
   * ケビン・マッカーシー下院議長がトランプ派議員と、共和党執行部からみれば民主党の裏切りによって解任
   * 繋ぎ予算を成立させたにも関わらず、民主党が下院議長の解任動議に賛成したのは、共和党執行部からみれば予定外
   * そこで慈善の策として、穏健派の下院共和ナンバー2、スカリス院内総務を選んだが、党内をまとめ切れずに議長選から辞退
   * 共和党執行部が最後の手段としたのが、トランプ派におもねる策で、保守派の急先鋒で司法委員長を務めていたジム・ジョーダン下院議員
   * しかし、３度の投票でも過半数に届かない、しかも投票の都度、共和党の造反議員が増加するという始末（20→２２→２５）
   * 結局、共和党執行部はジョーダン氏を議長候補から除外
   * 共和党内の派閥間の対立がエスカレートしている状況
3. バイデン大統領や民主党からみれば、来年の選挙に向けて共和党の瓦解は追い風ですよね
   * 国内政治的にはそうだが、国際情勢は待ってくれない
   * 米国の政府高官の多くが、国際的な危機が同時発生する事態を恐れ始めていると言われている
   * 危機の源泉は３つ、それが同時に発生するリスクだ
   * 第１に今起きている危機、ハマスのテロ攻撃に対するイスラエルの報復。それがイランやその先にまで戦争が広がるリスク
   * イスラエルはガザを全面包囲しているが、イスラエル自身も南はイエメンのフーシ派、東はシリアとイラクの民兵、北にレバノンのヒズボラから包囲されている状況
   * 特にイランから資金提供を受けている、ハマスよりもはるかに巨大なテロリスト集団であるヒズボラとイスラエルの交戦が激しくなれば、中東は非常に危うい状況に陥る
   * 第２にこれまでにない接近を見せる中国とロシア
   * プーチンと習近平による首脳会談で、両国は反米同盟を強化
   * 米国の安全保障の専門家は、中露の首脳は、米国や他の大国に対して「最盛期を過ぎ不可逆的な衰退に入った」と考えているのではないか、と論じている
   * 第３に核弾頭搭載可能な長距離ミサイルの発射実験を繰り返している北朝鮮。ロシア、中国、イラン、北朝鮮の核兵器を合わせると、「数年以内にアメリカの2倍近い規模になる」可能性があるとの指摘
   * これらの危機が、インターネットの偽情報の拡散といった情報戦争と相待って同時発生した場合、米国がリーダーシップを持って有効に対応できるのか、大いに不安が残る
4. そうした環境認識の中での、バイデン大統領の演説だった、ということなんですね
   * その通り
   * 第１の、現下の危機ですら、停戦への道筋は容易ではない
   * 国連安全保障理事会では、人道支援のための一時停戦決議が米国の拒否権によって否決
   * イスラエルの自衛権が尊重されていない、というのが米国の主張
   * イスラエルの保守派が、防衛網の穴となりかねない人道回廊の設置に強く反対し、米国内のユダヤ人ネットワークを通じて米国に拒否権を発動させたとみられる
   * 米国の繋ぎ予算は１１月１７日に切れる。下院議長の不在のまま、その日を迎えれば、イスラエル・ウクライナへの支援もできないまま、政府閉鎖となる
   * 同時多発的な戦争を回避できるのか、世界情勢は、非常に重要な局面を迎えている

１０月２１日付朝刊　１１面　米利上げ、次回見送り公算、FRB議長「慎重に進める」

1. この記事に注目した理由を教えてください
   * 11月初めにFOMCが開催される
   * 市場では追加利上げがあるのかどうかが注目されてきたが、パウエルFRB議長がそのヒントを与えた
2. パウエル議長は、どのようなヒントを与えてくれたのでしょう
   * 市場が注目していたのは、９月下旬から進んできた米国の長期金利の上昇が、FRBによる引き締めの代わりを務めるのかどうかだった
   * パウエル議長はまず、講演のために用意した事前原稿の中で、足元の長期金利の上昇について、次のように言及
   * 金融政策のスタンスの実際の変化や予想される変化は、より広範な金融情勢に影響を与え、それが経済活動、雇用、インフレに影響を与える
   * その金融情勢は、ここ数ヵ月で大幅に引き締まっており、長期金利の動きが、この引き締めの重要な原動力となった
   * これはどういう意味か。もう少し、わかりやすく言い換えると、
   * FRBが引き締めを行っている狙いは、金融情勢全般を引き締めて、インフレ圧力を低下させることにある
   * ところがFRBが次のFOMCを待っている間に長期金利が上昇し、金融情勢が引き締まった
   * しかも、大幅にというわけだ
3. たしかに、米国の長期金利は一時５％に届きましたね
   * 前回９月のFOMCが終わってから、先週金曜日までの間、米長期金利は６０bp以上の上昇をみせた
   * 大幅な上昇で、水準としても一時５％に到達。2007年夏以来の高さ
4. なぜ、米国の長期金利は上昇しているのですか
   * パウエル議長は、講演の後に開かれた主催者との対談の中で、今の長期金利の上昇の要因を挙げた
   * 非常に強い成長が米国で続いていることで、投資家が成長見通しを引き上げた可能性、
   * 財政赤字の拡大への懸念、FRBが進めている資産圧縮、いわゆる量的引き締め、QTの影響もあるかもしれない
   * それから、パンデミックやロシア・ウクライナ戦争、ハマス・イスラエルの戦闘などを受けて、先行き頻繁にサプライショックが起きることに対する投資家の予想などだ
5. サプライショックが起きると金利が上がるというのは、どういうことでしょう
   * 需要ショック、端的には景気後退だが、その場合、需要そのものに問題があるので回復は遅れがち、そうなるとリスク資産である株を持ち続けるよりも、債券を買った方がよい。その結果、債券の価格が上昇、金利は低下することになる
   * ところがサプライショックは需要の問題ではない。パンデミックの後、経済活動が再開されると強烈なリベンジ消費などが起きていることにみられるように、サプライショックが消えれば需要の回復は早い
   * ということは、株の代わりに債券を保有するインセンティブは小さくなる。需要ショックよりも、サプライショックが頻発するようなら、ヘッジ手段としての債券の魅力は従来より低下、その結果、金利が上昇するという考え方
6. 成長見通しの引き上げや財政赤字懸念、量的引き締めやサプライショックの頻発予想などが、長期金利を引き上げているかもしれない、ということですが、金融政策は影響を受けるのですか？
   * 長期金利の上昇が、先行きインフレの高まりやそれを受けた追加利上げ予想の高まりによるものなら、FRBは追加利上げに踏み切る必要がある
   * ところが金融政策と無関係な要因で長期金利が上昇しているとすれば、それこそがFRBによる引き締めと同じだ、というのがパウエル議長の説明
7. 長期金利の上昇が追加利上げの代わりになっている、ということなんですね。今後の展望を教えてください
   * 米国では、インフレ率と賃金の伸びの低下が続いている一方、９月雇用統計では非常に強い雇用の伸びが確認された
   * また成長率も潜在的な伸びを超える状況が続いている
   * こうした中では追加利上げの選択肢をなくすことはできないが、今回触れたように、長期金利が金融政策の思惑とは別の要因で上昇しており、FRBの引き締めの代役を務めている状況だ
   * こうした長期金利の動きに注目しているのはパウエル議長に止まらない。興味深いのは、タカ派と言われるFOMCメンバーの多くも長期金利上昇がもたらす金融政策への示唆に言及している点
   * 次回、１１月初めの会合では、先行き、追加利上げのオプションを残しつつ、政策金利が据え置かれる公算が大きい
   * その次の会合は12月中旬で、クリスマス前。重要な物価などの経済指標は２ヶ月分となるが、それらが多少上振れても、追加利上げにはならないのではないか
   * 追加利上げがあるとすれば来年だろう